



NPO法人 みどりのゆび

会報 2021年 新年号



コロナ禍の新年、万全の感染予防を。
本年もよろしくお願いいたします。



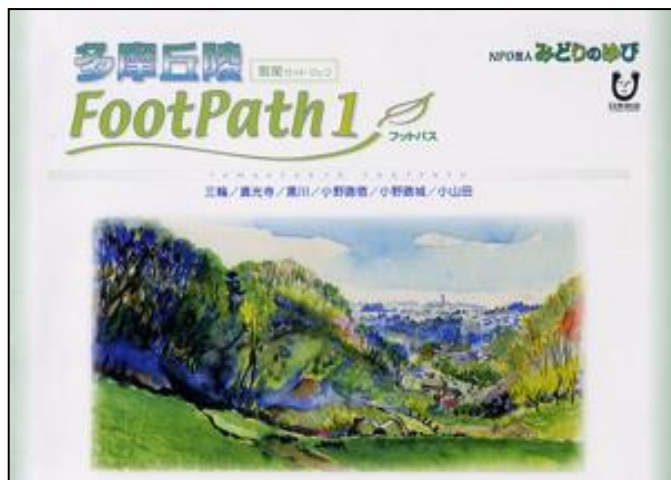
新年のご挨拶 高見澤理事長

新しい年を迎えましたが、新型コロナ・COVID-19との＜闘い／共存＞にもまだまだ時間がかかりそうですね。皆さま、お元気にお暮しでいらっしゃいますか。

昨夏の会報は日本フットパス協会設立10周年・町田大会記念号として刊行しました。しばらくは例年のような活動が困難になりましたが、秋からは小野路宿、小野路城、小山田、真光寺、黒川、三輪と原点に戻って地元でのフットパスを再開しております。詳しくは本号の記事をご覧ください。またお気づきかもしれませんが、これらのエリアは散策ガイドマップ『多摩丘陵 Foot Pass 1』記載のコースでもあります。いずれ改訂版を出すことになりそうなので、その際の修正事項を確認する意味の「歩き」でもありました。

今春以降もコロナの状況を見ながら、無理のない範囲でフットパスを継続したいと考えています。またようやくホームページの再構築もできましたので、ご覧いただき、活動に参加くださるなど皆さまからのよろしくのご支援をお願いいたします。

理事長 高見澤 邦郎



2021年の抱負 神谷事務局長

あけましておめでとうございます。

どこもここもコロナですが、とどまっているわけにはいきません。逆に、コロナだからこそ、「みどりのゆび」に期待されていることが大きくなっているように思えます。

それは世の中のパラダイム（社会価値）が「フットパス」の持つ優しくて地に足の着いた社会の在り方にシフトしてきているからだと思います。

これまでは町田で始まった「フットパス」を外の地域に、全国に、広げる活動に力を入れてきましたが、コロナによって、もう一度、愛する地元の町田のフットパスを見直す機会を得ることができました。昨年後半は、フットパスの源ともいえる『多摩丘陵 Foot Pass 1』の6コースを一つづつ改訂を目的に皆で歩きました。改めて、私たちの原点である小野路周辺の景観の素晴らしさを感じました。

今年は町田や近隣のそれぞれの地域の中に、フットパスのリーダーとなる人々を探し、交流していくことを町田市と計画しています。私の住む鶴川では地元の若い諸氏が活発に活動をしており、最近開発が計画されている岡上のモダンな指導者との交流や連携が始まろうとしています。「みどりのゆび」でもこの春には岡上などにも足を延ばした素敵な企画を予定していますので、皆さんもこの新しい春風を感じていただけたらと思います。小野路や相原、南町田でも若い人の動きが見えます。

これらのいろいろな流れや、コロナ禍でもなんとか元気でがんばっている町田商店街の老舗や起業家の頑張りを、もっと広く直接的に知っていただくために、面白くて楽しいyoutubeにも手をひろげていきたいとも考えています。町田市内ばかりでなく、東京都内や近隣地域にも、ディープな町田の魅力をお伝えしたいです。

老舗にもかかわらず、まだこんな元気な「みどりのゆび」の活動も、もっと知っていただきたく、ホームページも新年早々新しくしました。シンプルで使い易いものにしましたので、イベントやマップなどの情報がわかりやすくなりました。掲示板もありますので、皆さんのご意見もぜひお寄せください。

今年もよろしくお願いいたします。

神谷由紀子

小山田

万葉集縁の遺構や丘陵の原風景をとどめる

今回の散策地である小山田緑地は平成2年、多摩ニュータウン造成に伴い造られた都立の自然公園である。多摩丘陵の原風景をそのままとどめている。

又、ここは歴史の宝庫でもある。

縄文時代草創期（約7,000年前）には既に人が住んでいたことが発掘によって明らかになっている。

公園に隣接する「多摩よこやまの道」は多摩丘陵の尾根部に位置し、古代より武蔵野と相模野の境の高台として、西国と東国を結ぶ道、鎌倉街道、奥州古道、奥州廃道、古代東海道の痕跡も縦横に見られ交通の要衝であった。特に奥州古道、奥州廃道を介して陸奥の国より、良馬の供給があったと思われる。この「よこやまの道」とは万葉集の中の防人（さきもり）の歌に見られ

あかごま やまの はが と

赤駒を山野に放し捕りかにて

たま よこやま かし や

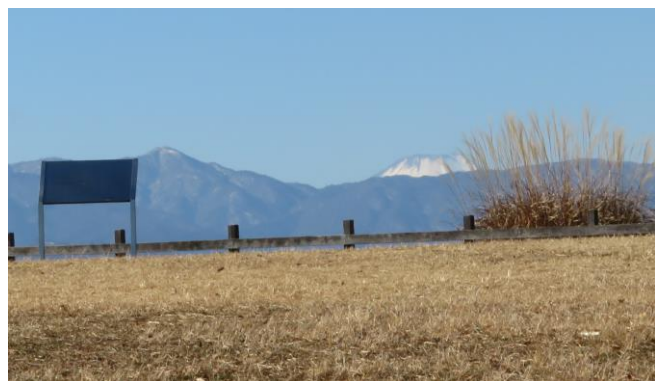
多摩の横山徒歩ゆか遣らむ

と宇遲部黒女（うじべのくろめ）が詠んだ歌に因んでいる。赤駒を山野に放牧して捕えられず、防人として九州に赴任する夫に多摩の横山を歩かせてしまうのだろうか。と夫を気遣う哀しい妻の心情が溢れる歌である。ほとんどの防人は再び故郷に戻ることはなかったのである。

9世紀中後期、小山田は石清水八幡宮の社地であった。

12世紀になって、秩父平氏の畠山重忠の叔父であった有重が別当として支配し、小山田氏を名乗った。有重ははじめ平家に仕えていたが後に源頼朝に仕えた。子供の小山田次郎重義、稲城三郎重成（政子の同母妹を妻としている）、榛谷四郎重朝、小山田五郎行重の兄弟は頼朝の重臣として活躍している。頼朝の死後、北条時政の陰謀により畠山氏と親族の小山田氏の主流は滅亡に追い込まれている。

小山田公園の高台にある「みはらし広場」から富士山のとっぺんが見られる。そこから後側に楯状の平な窪地がある。今は運動広場や野球場となっているが、そこは、一ヶ所を閉じれば馬の牧場となる鎌倉時代そのままの遺構である。



「みはらし広場」からの富士山。蛭が岳、丹沢山、大山までも



鎌倉時代の馬の牧遺構。駆けまわる子ども達の姿も

又、隣にある補陀山大泉寺は有重の居館跡で小山田城のあった所とされ、墓地には小山田高家の顕彰碑がある。高家は行重の末裔とされ、建武の中興後、新田義貞の侍大将となり、湊川の戦いで義貞の危急を自分の馬を差し出す事で救い、自身は壮絶な戦死を遂げたと太平記にある人物である。丘陵地のコナラ、クヌギ、シラカシ等の雑木林や草地や池等、谷戸の自然がそのまま残ったこの公園は縄文人や万葉びとや鎌倉びと等のいにしえを知る事によって、彼らと共に、又新たに楽しい散策が出来そうな気がする。

(N.K)

池ありつり、橋ありの 緑の起伏を楽しむ

9月20日(日) 天気：晴 参加者：3名

コロナで遠出は自粛され、多摩丘陵フットパス第一回目がこの小山田緑地でした。

「扇橋」バス停から歩き始め、木道を通り、ヒガンバナが咲き始めた脇道を登り、竹やぶから珍しいナンバンギセルを見つけました。

アサザ池に着き、ジュウガツザクラ（十月桜）の咲くあずまやで昼食を。田んぼが続く稲穂が実り、脇道に水車があり、ここが、町田だったかと思っただけです。サービスセンターに寄り、脇道を登ると、間もなくつり橋が見えて、ワクワクしながら渡りました。

紅葉の季節はどんなに綺麗かと想像し、また訪れたいと思ったことでした。いろいろなコースもあり、歩きがいのある場所でした。

(井上メイ子)



木道で池を巡る



つり橋から谷を眺む

小野路城

昔ながらの谷戸田や 小野路城址など史跡を巡る

10月4日(日) 天気：晴 参加者：8名

散策ガイドマップ『多摩丘陵FootPath 1』によると、小野路城コースは「多摩丘陵の中でも今では少なくなった昔ながらの谷戸田の風景が残り、丘陵の中に緑のスポットライトを浴びたような農地と石仏が存在する地域・・・」とある。このエリアの南部は東京都歴史環境保全地域に指定されているという。



さて、当日は「小野路」バス停からスタート。今は使われてないらしい野菜直売所脇の谷戸の道は、いきなりの濃い緑が続く。ヤブミョウガが実を付け始めていて、細長い葉が木漏れ日を受けて光っている。

雑木林を進むと左上方向から牛ののどかな鳴き声が聞こえる。ここには萩生田牧場の牛小屋がある。さらに進んで、クヌギの大木の前で右折。先ほどの雑木林を今度は下から見上げることになる。この辺りの雑木林も、以前は美しく手入れされていたというが、今はかなり荒れているようで残念。途中、「お化けホオノキ」の逞しい姿に出合って、初夏の大きな白い花と葉が目につく。この先、いささか劣化してはいたが道標に導かれて左折する。

目の前に開けた黄金色の豊かな稲穂が実った田圃を眺めながら、谷戸沿いののどかな道を進む。色づき始めた対岸の雑木や、まだ緑濃い畦道に土手を彩る真っ赤なヒガンバナが鮮やかなコントラストを見せて、用水路の水音がコトコト響く。道端の湿地帯にはガマノホや濃いピンクのツリフネソウの群落、今ではあまり見かけなくなったタコノアシなど、豊かな植物群や野鳥が目を楽しませてくれる。



帆を吊り下げた形の
ツリフネソウ



絶滅が危惧される
タコノアシ

ここは「奈良ばい」と呼ばれるエリア。炭焼き小屋があったり、季節には稲藁の「藁ぼっち」が並んで田舎の原風景を思わせる。このような奈良ばい谷戸の里山再生活動は2005年から「NPOまちだ結（ゆい）の里」が市民の協力を得て続けているという。この谷戸の先端を上った丘は鎌倉時代に小山田氏支配の小野路城があったと伝えられ、奈良ばい谷戸は小山田城との重要な道路となっていたといわれている。ちなみに、この「奈良ばい」という名前は、この道を行き来する武士たちがだらだらと歩いているので「並べー」と号令をかけたのが由来とか。

「さあ、お昼にしましょう」。「小野路」バス停を出発して、ちょうど2時間がたった。



奈良ばい谷戸の炭焼き小屋
切り出した木で焼いていた頃の面影が



広々とした東谷戸には田圃や畑が残る



奈良ばい谷戸でランチタイム。対岸にはホオノキが目立つ

野菜畑の畦道に昔懐かしい風情で咲くキクやケイトウの花が目を楽しませてくれる小径を歩いてバス通りに出たら、多摩丘陵病院方向に進む。マップ上では、東谷戸に向かうべく右折する手前にあったはずの園芸店は、住宅に変わっていた。

泉蔵寺・町田霊園の道から東谷戸へ。広々とした谷戸に黄金色に色付き始めた田圃が残るのどかな道。奥に残る畑を過ぎると雑木林沿いの上りとなり、浸食された道の右側高みを上る。

浅間神社からの道に出ると、サクラの大木があり、その下には畑が広がっている。雑木を整理して見通しのよい道になり、東方面の眺望も楽しめる。この先でスタートした「小野路」バス停からの道に出合い、正面には畑や丘陵の景観が見渡せる。ここからは人家や畑、浅い切り通しを過ぎ、往路をしばらくは戻ることになる。

「図師・小野路歴史環境保全地域」の看板が立つ分岐の小山は「小野路城址」。現在の小野路城址には、城山天王様の小さな祠が立っているが、往時の名残は見るべくもない。風に枝を鳴らす松の木は知っているだろうか

小山の下には「小町井戸」が。眼病を患った小野小町がこの水で養生したらご利益があったという伝説がある。水量はわずかだが、この湧き水は枯れたことがないという。

この先の道祖神のあるT字路には「図師・小野路歴史環境保全地区」の管理組合事務所がある。地元の人たちが谷戸や雑木林の保管理を実践しているという。作家・開高 健が、なにかのインタビューで「文明国であるほど自然がある」というような意味のことを言っていたが、私たちは民度を試されているのかもしれない。

ここからはどこか懐かしい田舎道を万松寺まで下る。左に上がったスタジイの林の下には六地藏がもう1体を加えて並んでいる。時にはマスクを掛けたりして、人が関わる様子が伝わってきて胸が温くなる。この後は小野篁縁の小野神社、小野路宿里山交流館でコースを終了した。

終了間際、古くからの地域の農家、小林家を久しぶりに訪ねてみる。高齢のおかみさんも元気そうで安心。ちょうど収穫した栗を茹でているところだからと、たくさんいただく。フットパスは地域の人々との繋がりも築いてくれるようだ。

(横山禎子)



小野路宿

陽だまりの中で、秋の里山、 小野路宿を満喫した1日！

10月25日(日) 天気：晴 参加者：11名

午前10時、集合場所の「別所」バス停には、朝から目映いばかりの陽光が降り注いでいます。この日の参加者の中で、この陽光を浴びて一際輝いていたのが、東京農工大学の現役大学生・四宮さん。次代の「みどりのゆび」、そしてフットパス界を担う期待のホープです。



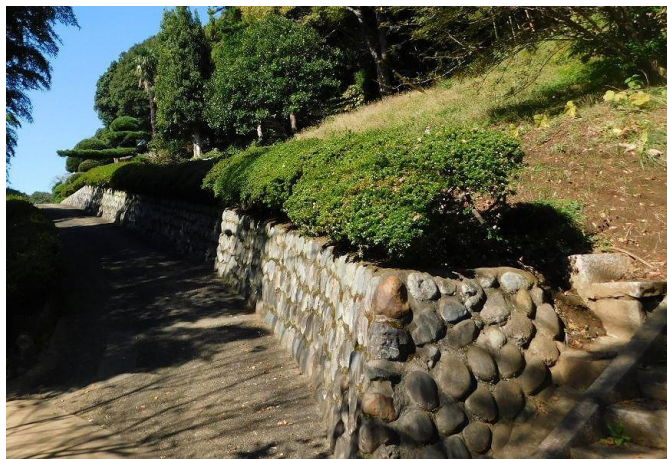
木漏れ日を浴びて…。右端が四宮さん

若い力が加わり、この日のウォーキングは活気に満ちたスタートとなりました。マップ改訂を意識し、道標のチェック等をしつつも、秋の陽だまりの中、里山の樹木と新鮮な空気に包まれて、会話が弾み、心身ともにリフレッシュしていくのが感じます。



秋の陽光の中、ウォーキングスタート

のどかな農村風景が楽しめる谷戸沿いの道は、石垣と手入れされた生け垣の調和が美しく、いつもながら地元の方々の生活意識の高さが伺えます。



石垣と手入れされた生け垣が見事

さらに進んで、眼前に広がる里山と畑が織りなす美しい景観は、まさに、これが「ザ・里山」と思えるほどです。ここが東京都であることを忘れてしまいそうでした。



里山の原風景が色濃く残る「秋の小野路」

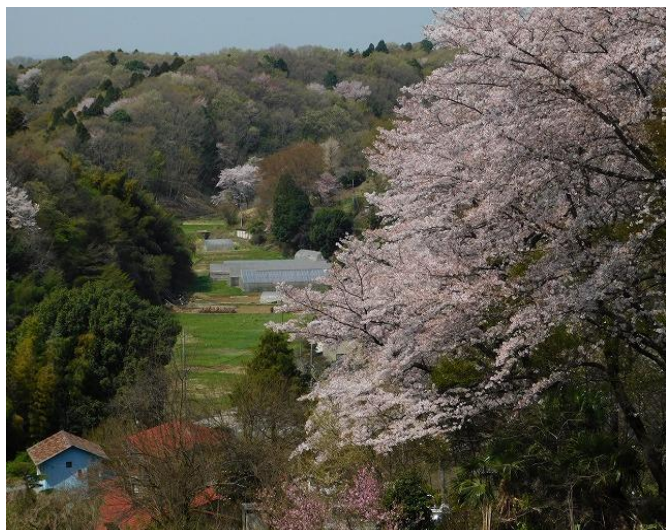
上の写真は、一昨年10月に撮影したものではありますが、このような里山の原風景は、小野路宿では珍しいものではありません。随所で見られます。



里山景観の美しさは、地域の人々が雑木林や田畑などを、薪や堆肥づくりなどをする場として、適切に管理することにより維持されてきました。林床が明るいのも特長で、春にはカタクリやスミレなどの花々（スプリング・エフェメラル）が見られます。近年は手入れがされなくなり、暗く鬱蒼とした雑木林や耕作放棄地が全国各地で増えています。こうなると、それまでは見られていた早春の花々は姿を消してしまいます。

伝統的農法など地域の人々の暮らしが息づく小野路宿では、まだまだ、その心配はありません。スプリング・エフェメラルばかりでなく、人家の周辺に植えられたウメやヤマザクラ、コブシなど、春の山里は花々に彩られ、その美しさは、まさに森林理想郷です。

例えば、こんな感じです。



人と自然の調和が美しい景観を創り出す
(ヤマザクラが満開です)



明るい林床が好きなタチツボスミレ

また小野路宿では、里山の自然フットパスだけでなく、鎌倉古道や布田道等の古街道が交差し、その遺構が随所に見られ、古の時代に思いを馳せることができるのも大きな魅力です。今回もその一端に触れることはできました。自然と歴史文化、その背景にあるものを感じながら歩くことができる「小野路宿フットパス」には大きな可能性を感じます。

午前中のウォーキングを終えて、昼食は小野路宿里山交流館でとりました。残念ながら、コロナ禍の影響で、いつものような和気あいあいとした会食形式にはなりませんでした。小野路産の地粉を100%使用したうどん、地元野菜の天ぷら、ほくほくコロッケ等に舌鼓を打つことができ、大満足！

午後は、ピアノ・コンサート等も開催される「ピアノカフェ・ショパン」の前を通過し、一本杉公園に到着。園内の古民家「旧加藤家住宅」の前で休憩を取りつつ、この日の行程をほぼ終了しました。

終日、秋の陽だまりに恵まれ、小野路宿を満喫した一日となりました。

(宇佐美 均)



1日の終わり、一本杉公園の旧加藤家住宅にて



「にほんの里山100選」小野路をもっと 知ってもらいたい

当日は、朝から絶好のウォーキング日和となり、春からのコロナ禍で巣ごもり状態が続いていた私には、ストレスから開放される久しぶりのウォーキングとなりました。

真光寺から続く布田道の途中にある我が家から、集合場所の「別所」バス停までは徒歩3分です。

11名の仲間が集合。神谷さんからはコロナ対応としてマスク着用、3密回避の注意があって出発です。バス停から布田道を歩き、大久保の分岐点に到着。布田道を左手に進むと関谷の切り通しへと続きますが、私たちは右手にあった妙桜寺方面への案内板（手入れが必要）方向へ。なだらかな斜面を登って行くとお馴染みのムクロジの大木が右手に。左手、一面の広い畑が広がる後方には紅葉が始まった多摩丘陵が連なる絶景を堪能できました。

のどかな里山風景が続く一帯を更に歩くと、恵泉女子大学の広い教習農場が現れました。近くの畑に旧知の農家さんがおられたので、しばし雑談。お元気そうでなによりでした。

妙桜寺の手前に到着。ここから左手の雑木林の中でこぼこ道に入ります。鎌倉古道と並走しているこの道の、落ち葉の絨毯を踏みしめて下っていくと、恵泉女子大学管理の田んぼに出ます。ここでは春の田植え、秋の稲刈り、餅つきなどが年中行事として学生と地域の人々の共同により継続されており、私も楽しみに参加しています。

さて散策ですが、大久保の分岐点から続く布田道に出て関谷の切り通しへ向かいます。この辺りの里山も昔の面影が残り、造成された少年野球のグラウンドだけが目新しい。切り通しは両側から大木や延びた竹が道路を覆い、崖からは木の根がはびこり、今にも崩れ落ちそうでいながら、周囲から護られているような安心感に包まれます。

今から六十年以上も前ですが、幼少の頃、この先に母の実家があり、何度も通った道が当時とまったく変わらず残っていることは驚きでした。その頃は、歴史上重要な古道であったことなど知る由もありませんでしたが。

この後「小野路宿里山交流館」まで歩き、「小野路うどん」の定食をいただきました。地元から伝承されている郷土料理で、わたしにとっては懐かしい母の味でもあります。昼食後、多摩市の一本杉公園まで歩き、園内の古民家の縁側で一休み、解散となりました。

町田市の北部丘陵に位置する小野路。わたしはこの地で農家の長女として生まれました。結婚を機に東京都心に移り住みましたが、十年前、夫の定年と同時に当初からの希望どおり戻って来ました。今では先祖から受け継いだ畑で、野菜づくりなどを楽しみながら暮らしています。この懐かしい土地が「にほんの里山100選」に選ばれ、程なく里山交流館が開設されたことにより、小野路の誇るべき里山風景を愛する多くの方が散策に訪れてくださることを願っています。

（松尾 加代子）



秋の実りの柿を収穫



みどりのゆび管理里山にて



真光寺

新撰組の近藤勇らが歩いた布田道と 緑豊かに整備された真光寺公園の今

11月8日(日) 天気：晴 参加者：11名

まずは鶴川街道の「入谷戸」バス停を出発。その昔、新撰組の近藤勇・沖田総司などが小野路宿の小島道場へ通ったといわれている尾根・布田道を歩き始めました。朝、寒かったですが、歩いて行くうちに汗ばむほどになり、上着を脱ぎました。

町田いづみ浄苑や電源開発西東京変電所という自然にはいささか違和感のある施設を通り抜ければ、途中、途中は咲いているお花の名前を聞きながら歩くのも楽しい道で、赤い実をたくさん付けたマユミが印象的でした。春になればサクラの花が見事な場所もありました。

この後、鎌倉街道付近でトイレをお借りしたのは会員の松尾さん宅。ここに住んでは畑作りを楽しんでいらっしゃるそうで、収穫したばかりの珍しいサツマイモ「ムラサキイモ」をいただくといううれしいサプライズもありました。

ここからUターンして飯守神社へと向かいました。飯守神社の裏手の山道を歩き、朝、出発した「入谷戸」に。以前から評判のレストラン「タックルステーキ」でランチをとるためです。里山歩きの途中のちょっとしたお楽しみも新鮮なもので、足元はかなり気を使う山道もなんのその。午後のパワーアップにもなりました。

さて「入谷戸」の目の前に広がる真光寺公園。ちょうど紅葉が始まったばかりで、ケヤキやカエデなどがダイナミックな芝生の丘を彩っています。この公園は、たしか20年位前にはただの小高い山が宅地開発に伴って造成され、現在のような池や起伏のある公園に生まれ変わったのでした。

春、丘の上にはウメが咲き、サクラが咲き、お弁当を広げてお花見を楽しんだり、丘の斜面では、子ども達が段ボールをお尻に敷いて芝滑りを楽しむ賑やかな声が聞こえます。また、冬の雪が降った景色は格別のものがあります。近代的な住宅地と里山を結ぶ公園の価値が実感できる場所です。



紅葉の真光寺公園

しばらく公園の秋を楽しんだ後、鶴川方面に向かう町田と川崎の県境を歩くことになる尾根緑地へ。晴れた日なら富士山がきれいに見える場所に出ましたが、今日は残念ながら富士山もお休みの日でした。



尾根緑地を歩く

神明神社を経て真光寺川方面に下りる途中では、今も残されている茅葺屋根の石川邸「みんなの古民家」を見学させていただき、ゴールの鶴川駅に向かいました。

(土肥しず子)



黒川

首都圏近郊に残る 伝統的な里地里山景観

11月29日(日) 天気：晴 参加者：10名

黒川地区は平氏落人伝説も残る川崎市北西端辺境に位置し、20年前に大規模住宅開発を実現する一方で、川崎市の線引きで農業振興と大規模な里山緑地保全策が図られた結果、交通の便が良い首都圏近郊ながらも、伝統的な里地里山景観が残された貴重な地域である。

近世の江戸近郊生活が偲ばれる脇往還や寺社跡が残り、大正期に神社統合で地区唯一の鎮守となった汁守神社を核とする村落共同体的農村文化も今なお残っている。

I) 午前ルート順に説明

① 汁守神社集合 10:20

参加者利用が黒川駅と「日影」バス停に分かれたため汁守神社を新たな集合地とし、資料を配付のうえルート説明を行った。

汁守神社は明治39年(1904年)一村一社の命を受け、大正3年(1914年)上黒川の八幡大社、中黒川の天王神社、下黒川の日枝神社が合祀した。その結果、黒川地区唯一の鎮守社となり、祭礼を通して住民結束の要となっている。五穀を司る保食命(うけもちのみこと)が主祭神であり、府中大国魂神社くらやみ祭の汁を調整したのが社名起源と謂われるが定かではない。境内では早春から深紅のヤブツバキ、怪しい魅力のタマノカンアオイ、白く可憐なイチリンソウも楽しめる。

② 布田道谷戸ルート

小野路宿(町田市)と布田五宿(調布市)を結ぶ布田道は黒川西部では2ルートに分かれていたと謂われ、谷戸に下りて谷戸縁を縫う当ルートと都県界に沿った尾根通しルートが、汁守神社前で合流し坂浜(稲城市)方面に続いたと推測される。

③ 海道ひだまり公園

旧黒川村に8つあった小字の一つで、この付近を指す海道(街道か垣内の意か)の名を冠した公園場所である。住宅公団が造成時に設置。その横を登る里山道は瓜生(多摩市)黒川往還に繋がる。



④ よこやまの道

はるひ野開発のコンセプトが里山と共存する住宅街であったため、住宅街区縁の北西を走る尾根筋に古くからあった自然発生的な尾根道を、住宅公団、多摩市、川崎市が整備維持する遊歩道で東西延長約10kmに及ぶ。尾根地形から全体に眺望が良いし明るくて快適に歩ける。

⑤ 丸山

山容からスクモ(わら)塚とも呼ばれた川崎市最高標高地点。昭和59年(1984年)黒川地区への配水を目的として川崎市水道局が高区貯水池を設置。古い三角点は撤去された模様だが、川崎市の現状等高線地図を見ると標高148m。昔は裏に疫病死者を茶毘に付す火葬場があった由。

⑥ 防人見返りの峠(標高140m) 11:30

よこやまの道に設営された眺望の良い休憩所であり、冬場晴天時には大山から富士山、農鳥岳、北は赤城山までのスカイラインが一望出来る。宮田先生の歴史古街道団による古偲ぶロマン溢れた命名も功を奏して、里山ハイカーにとって良き憩いの場となっている。





⑦ 尾根からの下降道 (防人峠の南西約300m)

よこやまの道からオキノ谷戸に下る林間の山道。鷹ノ巣道と並んで黒川と瓜生を結んで物資往来に利用されたと思われる。足元が全体に滑りやすく、特に傾斜が急な最後の下りに注意。



⑧ 入り谷戸

山道を下りた所が狼谷戸の入口で、ここからは広い舗装路となる。貸し農園が多い一帯を抜けると少し広めの入り谷戸地区となり、水田と畑が混じる。鷹ノ巣谷戸への登り口から旧道を辿れば川崎では珍しいリング畑（イリ市川氏圃場）もあり、良く手入れされた果樹園や水田の景観が楽しめる。

⑨ 毘沙門堂

左手の寺ノ谷戸を登れば、かつて汁守神社も管理していた真言宗 金剛寺の跡と毘沙門大堂と称された小祠がある。金剛寺は檀家が少なく明治初期の火事で廃寺となり、信徒は概ね本寺である坂浜高勝寺の檀家になった模様。

⑩ 橋場

三沢川源流部に架かる八幡橋があった橋場は上黒川の地理的中心であり、今も小正月のセーノカ

ミ(ドンド焼きを意味する塞ノ神/歳ノ神の当地訛り)が刈り終えた田圃で行われている。南に入る沢谷戸を越えれば真光寺(町田市)に至る。

⑪ 地神塔

農民を守り豊作を祈って建てられた地神塔、病災から村を守る庚申塔、道路の悪霊を払う道祖神、水の霊を祀る水神様、養蚕を祈る糸巻型石碑等が古い道標と共に橋場周辺に置かれていた筈ながら、整理され山裾の一角にまとめられている。

⑫ 柿生発電所

忍野八海に端を発する相模川水系の水が津久井湖経由、下九沢分水池から川崎市長沢浄水場に至るまで管経2.4m長さ21.4kmの導水管を通り、ここで発生する自然落差12.2mを利用した水力発電所。昭和37年(1962年)神奈川県企業庁が設置し最大680kwhを発電している。

⑬ リストランテ “アベータ” 12:30～14:00

小田急傘下ジローレストランの郊外一軒家イタリア料理店であり、昼は落ち着いた雰囲気の中リーズナブル料金でコースランチが楽しめる。

Ⅱ) 午後ルート順に説明

① 小田急線はるひ野駅

小田急多摩線開通から30年経った平成16年(2004年)黒川駅～永山駅間に新設された最近珍しい地上駅。極小規模ながら太陽光と風力発電装置を有し、屋根はなだらかな里山形で、構内は鉄骨ポリカ張りで明るく簡素モダンな意匠が特徴。

② よこやまの道

開発時の環境保全協議で支尾根状地形と植生を残すためにトンネルが掘られた。その上に続く山道を辿って よこやまの道に登り切ると、さくらの広場が、ここでは、春にはエドヒガンの独立木と脇にあるコブシの大きな木が見事な花を咲かせる。



③ 池谷戸水辺緑地

尾根から湧く水を溜めた池と周辺の緑地を含む谷戸源頭部は、地元ボランティアによって管理維持され住民の憩いの場になっている。夏にはホタルが舞い子供達で賑わう。元は米作りのため水温が低い湧水を高める目的で作られた溜池と思われる。



④ 海道緑地遊歩道

3年前川崎市が海道特別緑地保全指定地区を拡大。総面積の約8割を市有地化し、休耕田を含めた公園的緑地として遊歩道も整備した。水田はなくなったが手入れの良い谷戸が奥深く続いて景観は秀逸であり、11月には点在する芸術作品が良く映える里山舞台を提供している。



⑤ 海道谷戸

谷戸奥に立つ1軒農家オヒキザワ市川氏が今も農業に従事している。市街化調整区域指定もあり谷戸筋の田畑も維持され、住宅街の脇で今なお昔ながらの谷戸景観が残されている。

⑥ セレサモス麻生店

平成20年(2008年)川崎市農業協同組合JAセレサが汁守神社前に新設した大型生産者直売店。前身の黒川農産物直売店と同じく新鮮地場野菜が売られているが価格的には高くなった。

⑦ 「日影」バス停解散 15:50

バスで鶴川に向かう人と黒川駅に戻る人がいるため、当バス停が解散場所となった。

III) 住宅/農業/緑地の調和事例

黒川地区の昔は“川崎のチベット”と呼ばれる辺境の地であったが、鉄道駅が3カ所に開設されるに至り、はるひ野が都心へのアクセス良好なベッドタウンとして計画通りに開発された。

農地の乱開発を防止し健全な農業の発展を図るため、市街化調整区域や農業振興地域が指定され、黒川上地区と黒川東地区では土地改良事業も済ませ、都市近郊型農業が盛んである。

更に自然環境と里地里山景観を保全するため、川崎市により特別緑地保全地区が17カ所(43ha)、緑の保全地域が4カ所(4ha)指定され、黒川地区総面積の16%にも達している。

その結果、黒川地区では住宅開発、農業振興、里山保全とそれぞれ相反する目的間の調和が良く取れており、首都圏近郊における大規模住宅開発の好事例を提供している。

(合田英興)

三輪

白洲正子の散歩道・三輪の里を歩く

12月13日（日）天気：晴 参加者：7名

大和の国の三輪の里に似ていることから「三輪」と名付けられました。三輪緑地の緑豊かな環境と古墳や神社仏閣などの歴史遺産が調和し、鶴川在住だった白洲正子の好んで歩いた散歩道でした。

三輪の里から市境の尾根道を歩き、横浜市の寺家ふるさと村も訪ねました。

ご好評のNPO法人みどりのゆび発行の『多摩FootPath 1』（2009年6月1日改訂）の改訂の一環として、三輪のコースを歩きました。そのフットパスの様子です。

1. 三輪フットパスのマップ（下が北）に従って鶴川駅からほぼ番号に沿って歩きましたが、②は「三輪の森ビジターセンター」（2018年開館）となり、この②から⑧の下三輪横穴墓群への尾根道を歩き、寺家ふるさと村への新ルートを歩きました。

2. 鶴川駅(①)からスタート。鶴見川は古くから“暴れ川”の異名があり、大雨が降るたびに氾濫を繰り返していたため、全国に先駆けて「総合治水対策」（1979年）に取り組んでいました。そのため鶴見川を挟んで町田市と川崎市の都県境と河川管理境界も入り組んでいます。

「ここは川崎？ 町田？」と会話しながら歩を進めました。真光寺川の鶴見川への合流地点に開戸親水広場があります。



3. 精進場橋を渡り南へ道路を登ると高蔵寺(②)に出ます。シャクナゲの寺としても有名ですが紅葉も美しい。手入れが行き届いた気持ちの良い素敵なお寺です。

足利将軍家代々の武運長久祈願所として開山の歴史（1362年）あるお寺で、東国花の寺百ヶ所の東京第5番札所、多摩四国八十八ヶ所の第十札所です。

昭和10年、北原白秋夫妻が訪れて「高蔵寺しづかやと散葉眺めいて梢の柿のつやつやしいろ」と詠まれ、7首の書かれた石碑が置かれています。



古墳時代後期に造られた13基が確認され、フェンス越しに2基が見学できます。白い地層は上総層群柿生層で、この泥岩に横穴墓を造っています。貝の化石などが出るので太古は海底だったようです



5. 白坂をさらに下り、沢谷戸自然公園(④)から沢山城址の丘を振り返ってみました。沢山城は後北条の築いた城で八王子城、成瀬城、小机城などに関連しています。さらに進むと梶山神社(⑤)が見えて来ます。大和の三輪の里に鎮座する大神神社の御本体である三輪山にこの付近の山容がよく似ていることから、877年に当地に勧請されたとの伝承があります。昭和20年頃までは、樹齢五、六百年を経たスギやマツの巨木が鬱蒼とした鎮守の森そのもののたたずまいであったそうです。

4. 高蔵寺の横門から出ると、「三輪の里」としての景観を維持している畑地に出ます。春にはウメやサクラが咲き、美しい桃源郷の景色が創り出されます。この辺りは、清和天皇の御代(877年)、大和国三輪の里の神の社使、荻野・矢沢・斉藤氏等がこの地に移住したと伝承されています。畑地の奥に沢山城址が。私有地の城で、団体の見学は禁止されています。さらに、美しい竹林の道を降りていくと、白坂横穴墓群(③)が現れます。



6. 次に妙福寺(⑫)へ向かいます。境内は約四千坪におよび山門(高麗門)、鐘楼門、本堂や祖师堂など整えた立派なお寺です。高麗門は平成20年の台風で倒壊、令和元年12月に再建されました。上層部に鐘を釣った二階造りの鐘楼門は町田市内ではここだけです。本堂の屋根はもと茅葺でしたが、今は、素敵な曲線の銅葺屋根となっています。



7. 妙福寺の横道から第三公園（⑦）を経て「三輪の森ビジターセンター」（⑫）へ向かいます。長年の三輪緑地保全活動の願いがかない2018年4月にオープン。散策路も整備され、下三輪横穴墓群・寺家へ向かう市境界の尾根道を歩きます。



8. 下三輪玉田横穴墓群（⑧）は4基発見され、特に、第1, 3号の2基は天井部分に屋根構造を浮き彫りで表現した「家形横穴墓」で、全国的にも珍しく、都内ではこの遺跡のみです。ここからは尾根道を下り、明るく広々とした「寺家ふるさと村」へ向かいます。



9. 寺家ふるさと村（⑨）は1960年ごろから始まった団地開発の波に対して、寺家町の農家の方々が先祖伝来の農地や山林を守り受け継ごうと「ふるさと村」として保全するべく、1980年ごろに計画策定。「寺家ふるさと村・四季の家」が1987年に開館しました。

「寺家乃鰻寮」にて昼食をいただきました。



10. 寺家ふるさと村から山谷切り通しの道(11)を経て妙福寺へ戻り、バス通りを進むと、田んぼの真中に参道がある廣慶寺(13)が現れます。参道には十二支と守り本尊、小型の鐘が108個並んでいて、見るだけでも楽しい光景です。

1572年の安土桃山時代に開山の歴史があります。さらに、少し歩くと西谷戸横穴墓群(14)が広がり、フェンス越しに見ることができます。ここでは圭頭大刀などが発見されています。



11. 三輪緑山住宅地区はかつては雑木林が広がっていましたが、1980年代から開発が進み分譲が始まりました。その三輪中央公園(15)の横を真っ直ぐ進み、熊野神社(17)へ向かいます。

熊野神社も梶山神社と同じ877年、大和の三輪の里より勧請との伝承があります。現在の社殿は昭和48年の再建。社殿左の御神木の「アカガシ」(町田市の名木百選)は樹齢300年以上、幹回り約6mのケヤキの切り株も残っています。熊野神社の左手の道を進み、右の細い道へ入る(18)。岡上への道路に出たら少し上り、右の細い道へ入る。この道が鎌倉街道早ノ道で、「いざ鎌倉」と馳せ参ずる道筋でした。



12. 鎌倉街道早ノ道に面して東向きに建てられ、それが寺名の起こりの岡上山東光院宝積寺(おかのぼりさんとうこういんほうしゃくじ)(19)に到着しました。仁王門からは入れませんので、もう少し先の長屋門から境内へ入ります。いつ訪れても静かな境内で、ゆっくり見学ができます。江戸時代に建てられた仁王門、重層で左右の仁王像も素晴らしいです。イチョウの黄葉とモミジの紅葉の色合いが素敵でした。この仁王門の周りのイトヒバ、イチョウ、カキの木が川崎市の「まちの樹50選」に選ばれています。行基(750年ごろ)による創建と伝わる古刹であり、王禅寺とともに多摩丘陵の2大本寺とされて、三輪の高蔵寺など11の末寺があったそうです。

鶴見川に戻り、鶴川駅で解散しました。



(田邊博仁)

緑地管理

夏草が生い茂る緑地に 草刈り機で挑戦

9月27日(日) 緑地：10～12時 天気：晴

参加者：石垣、井上、神谷

夏草が一面膝まで生い茂った緑地を、そろそろさっぱりさせたいと、この日は参加者3人で分担して草刈りをする事にしました。神谷さんは奥の斜面、石垣さんは主に茂っている灌木の枝葉を整理したりクズなどの蔓を整理。わたしはメインの草地の雑草刈りです。

平らな草地を刈るだけだからと、ベテランの石垣さんに教わりながら、生まれて初めて草刈り機なるものに挑戦です。ところが起動したはいいいけれど、体中に振動が伝わって、胸がバクバク。ただ振り回していればいいわけではなく、地面に水平に使わないと土と一緒に削ってしまうし…と悪戦苦闘で汗びっしょりに。

それでも鎌を使うよりやっぱり効率的です。機械を使うことにちょっぴり自信もついたので、今後の草刈りが楽しみです。(井上メイ子)

石垣さんが植えた白い曼殊沙華が道沿いに群生していました。(神谷由紀子)



カナムグラから植物たちを救出 ごほうびは甘い柿・禅寺丸

11月22日(日) 緑地：10～12時 天気：晴

参加者：鈴木(由)、西谷、神谷

緑地のあちこちにコンモリ、フンワリした小さな緑の山が出来ている。一見微笑ましい光景だけれど、これは「かなもぐら」という植物がジリジリと地面を這い、周りの植物に覆い被さって出来た物である。「カナムグラ」は、葉の形はもみじに似てキレイだけれど葉にも茎にも棘がある。私達は茎に足を取られながらも鎌を振るい、次々に若い木々や切り株やコスモスの花を救出した。

通りがかりの人が、先を割った竹で上手に柿の実を採り「有り難う。いい経験をさせてもらいました」と2個の柿を手にとって行った。

私達も休憩の時に柿採りに挑戦。合計12個も収穫した。美味しかった。種を埋めたら8年後に美味しい実を付けてくれるだろうか。取り敢えず種を取っておこう。12時過ぎに作業を終えた。

(鈴木由美子)

禅寺丸がたくさん採れました。実は固いまますので食べるととてもおいしい柿です。

(神谷由紀子)



雑草刈りの半分は来年に持ち越し 参加人数と草刈り機の活用が課題

12月6日(日) 緑地：10～12時 天気：晴

参加者：合田、井上、新納、鈴木（由）、神谷

合田さんが参加して草刈りが進みました。
またカキの実もだいぶとってくれたようで、皆さん楽しかったようです。（神谷由紀子）

今秋の緑地（物置小屋前）の管理作業は3回目、個人的には怪我もあり今年初めての作業。草刈り機を使って、それなりに効率的な雑草刈りが出来ました。しかし、エンジン草刈り機は1人しか使えず、他の4人は鎌による手作業でもあり、緑地半分位の雑草刈りは来年に持ち越しました。雑草は冬に枯れるので、緑地はあと一度やれば良いかと思えます。

斜面が多く面積が広い管理竹林（切通し南側の竹林）の草刈りは残したままなので、年明けから取りかかりましょう。春の楽しいタケノコ掘りをし易くするためにも、冬の間には竹林は整備する必要があります。

物置小屋前の元畑地ではカキの実が熟して今にも落ちそうな風情です。草刈り終了後に余興を兼ねて竹竿と脚立を使い、童心に返って柿落としを楽しみました 僅かながら帰りの土産としました。

緑地管理作業はウォーキング行事に比べると、地味なせいか人があまり集まりません。2～3人しか来ない日もあるようです。里地里山は手を入れてこそ役立つし、美しい景観が維持出来るのです。里山ではコロナもあまり心配することなく、陽光を浴び綺麗な空気を吸いながら作業出来ますので、皆さまの参加をお待ちいたします。

会保有のエンジン草刈り機は、軽い2スト機が1台とやや重い4スト機が1台、計2台有ります。扱える方が2人以上参加すれば草刈りは効率的に出来ます。特にエンジン草刈り機を扱える方はご参加お願いいたします。

（合田英興）



NPO法人「みどりのゆび」2021年1～5月フットパス・スケジュール

持ち物：弁当 水筒 雨具 参加費：会員1000円 非会員1500円 (イベントによって変更あり)

コロナの第三波の収束具合でスケジュール通りにいかない場合も考えられます。
 変更があった場合にはホームページでお知らせします。必ず前日にはホームページで確かめてください。
 ご質問、ご相談などありましたら事務局までメール、お電話などご連絡ください。
●必ずスケジュール変更を確かめてからお出かけいただかないと無駄になることとなります。申し込んでも事務局から何も連絡がない場合には、再度お電話などご連絡ください。
 メール：info-m@midorinoyubi-footpath.jp 電話：042-734-5678 FAX：042-734-8954 携帯：080-5405-3904 (神谷携帯)

3月14日(日) 【集合】 東急こどもの国線 長津田駅改札口 9時30分 【昼食】 右記	『まちだフットパスを歩く』 長津田からすずかけ台 【講師：NPOみどりのゆび】 【内容】 『まちだフットパスガイドマップ』の6を歩きます。ヤマト宅急便のセンターができて大幅にコースの様子が変わったので、次の版では改訂したいと思っています。 昼食は弁当を考えていますが、少し朝早めに出かけて、「すずかけ台」駅近くのスペイン料理「エルペスカドル」か「増田屋」でも楽しいと思います。
3月28日(日) 【集合】 小田急線唐木田駅 改札口 10時00分 【昼食】 右記	『多摩丘陵フットパスを歩く』1 小山田スパアウト 【講師：NPOみどりのゆび】 【内容】 昨年歩いた小山田のコースで最後の、しかし是非ご紹介したい部分が残りました。その里山と林を堪能します。ちょっとよこやまの道に寄り道してもいいと思います。 昼食は日本そば「山桜」がやっていればそこに寄ってもいいと思いますが、弁当かもしれません。
4月4日(日) 【集合】 「別所」バス停に 10時00分 【昼食】 右記	『多摩丘陵フットパス:小野路の桜を見に行こう』 【講師：田邊博仁】 【内容】 毎年恒例の小野路の春の里山桜めぐりです。 昼食は「小野路宿里山交流館」で。
4月11日(日) 【集合】 小田急線新百合ヶ丘駅北口 マクドナルド前 10時00分 【昼食】 右記	『フットパス専門家講座：スミレ博士による新百合ヶ丘の春』 【講師：山田隆彦】 【内容】 恒例の山田先生の植物観察です。知ってるようで知らない新百合ヶ丘の緑地を巡ります。 昼食には蔵でワインを作っている岡上の農家が経営する新百合ヶ丘のレストラン「Lilies by Promete」で新鮮な野菜料理を味わいます。
4月18日(日) 【集合】 JR横浜線相原駅 改札口 10時00分 【昼食】 自由昼食	『フットパス専門家講座：相原七国峠古道と中世・粟飯原氏のムラ跡を探る』 【講師：宮田太郎】 【内容】 JR横浜線「相原駅」～丸山古道と鎌倉時代創建の相原諏訪神社～開都の長福寺（文殊堂ほか）～朱雀路～旧町田街道（鎌倉街道山ノ道のカギの手辻～ガストまたはうどん店などで自由昼食（コンビニあり）～相原起番地の碑と相原八幡宮～御嶽社（中世の関跡）～相原七国峠古道（南路）～相原七国峠古道（北路）～峠の出羽三山塔と関跡、荷車の轍（わだち）痕跡～山頂の大日如来像相原中央公園～「相原小学校前」バス停～相原駅。 行程約5.5 km。解散は15時頃を予定。
5月9日(日) 【集合】 小田急線相武台前駅 改札口前 10時00分 【昼食】 右記	『フットパス専門家講座：座間の旧集落から谷戸山公園』 【講師：浅黄美彦】 【内容】 浅黄さんは能ヶ谷町在住の元座間市役所職員で、一級建築士。法政大学陣内秀信研究室、東京のまち研究会で1977年から東京のまちを歩いておられます。そしてなんと、スリパチ学会の会員です。地形を認識できるようになるとフットパスもいいコースが見つかります！ 【コース】 ①小田急小田原線「相武台前」駅 改札口前（改札口は一つだけです） 相武台前操車場、変電所を軽く眺めます。変電所は大正期のRC建造物。 かつての砂利置き場、相模川から駅まで砂利運搬鉄道がありました。 ②かみが沢公園 駅前の公園を通過していきます。簡単な履歴、地形の特徴 相模野台地の襲（ひだ） 台地の切れ目 谷頭 谷戸地形 かつての国有地（軍用地）の払い下げ 4ヘクタールほどの細長い地区公園 水路があり目久尻川に流れる。

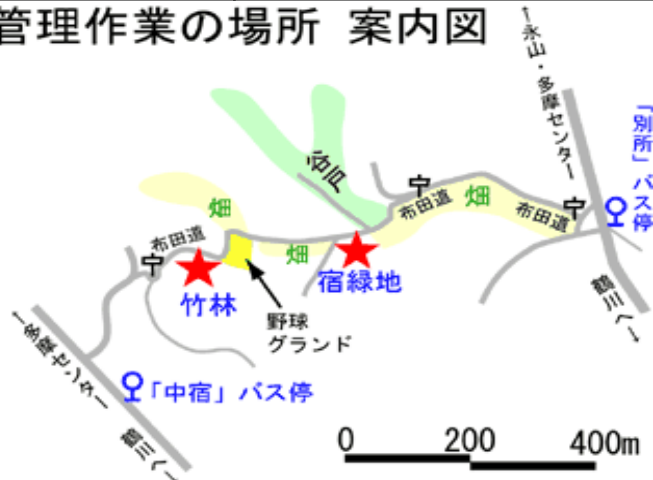
	③県立座間谷戸山公園 約32ヘクタールほどの自然生態公園 三方を囲まれた2級スリパチ地形 かつては村の入会地 谷戸地形と水辺 1984年（昭和59年）都市計画決定時に担当、公園整備前の姿を説明 ④星谷寺 坂東三十三番札所 谷戸山公園、ホシノタニ団地との関わり ⑤昼食 やぶ久（蕎麦屋さん）予定 ⑥鈴鹿長宿（座間の旧集落エリア） 散歩約13ヘクタールほど（担当していたエリア） 平成15年国土交通省都市景観優秀賞受賞地区 ⑦座間駅へ 小田急電鉄株の社宅4棟のリノベーション ランドリーカフェ（ブルースタジオ株が企画設計 2016年グッドデザイン賞大賞を受賞） 公民連携事業として担当 お茶して解散。
5月23日(日) 【集合】 J R 荻窪駅東口 地下の改札口外 9時30分 【昼食】 当日決定	『他のまちのフットパスをみてみよう：西荻窪・旧井荻町（村）を巡る』 【講師：岩崎英邦】 【内容】 吉祥寺、荻窪を2018年に歩きましたが、この西荻を加えてこれで3つの駅がつながりました。 西荻はどんなまちなのでしょう。
5月30日(日) 【集合】 小田急線鶴川駅北 口改札口外 10時00分 【昼食】 右記	『多摩フットパス専門家講座：岡上のバラガーデンから玉川学園、町田へ』 【講師：高見沢邦郎】 【内容】 杉浦ガーデンから玉川学園住宅地（開発後90年を超えました）に出て西側（北口）住宅地を歩き昼食（岡半／家庭中華を予定）。午後は東側を経てかしのき木山～鞍掛の松～高ヶ坂遺跡～町田駅解散。『まちだフットパスガイドマップ』の3および4コースを組み合わせて歩きます。

NPO法人「みどりのゆび」2021年1月～5月CSAスケジュール

★日時変更になる可能性がありますので、必ず事務局に確かめてからお出かけください。

「緑と農の管理」 持ち物：弁当、水筒、軍手、長靴（必要なら）	
2/21（日）	竹林整備
3/21（日）	竹林整備
4/10（土）	竹林（筍伐採）
4/17（土）	竹林（筍伐採）
4/25（日）	竹林（筍伐採）
5/16（日）	緑地整備-草刈
6/12（土）	恵泉女子大 田植え
10/9（土）	恵泉女子大 稲刈り

管理作業の場所 案内図



NPO法人みどりのゆび 新ホームページのご紹介

新年(2021年)から、ホームページをリニューアルいたしました。ウェブ検索にて「NPO法人みどりのゆび」と挿入すると右記のホームページが開きます。

上部の各項目の▼をクリックしますと、さらに、各種のご案内が開きます。

●「イベント」では各種イベントのスケジュール、カレンダー、申込みが開きます。

●「活動の記録」では会報、活動レポートが開きます。

●「みどりのゆび概要」では、会のご紹介、沿革、入会申し込みなどが開きます。

・「お知らせ」では、新着情報、掲示板が開きます。掲示板では、みなさまの投稿が可能になりましたので、ご活用ください。

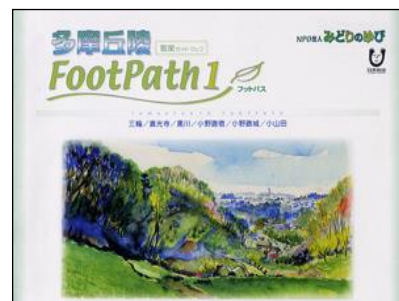


フットパスガイドマップ 既刊4冊

町田市地域には、フットパスにふさわしい昔ながらの里山風景、雑木林、田畑、古街道、歴史の面影などが随所に残されています。

魅力あるフットパスコースを町田市と協働で開発して、フットパスガイドマップとし、「多摩丘陵FootPath1」 ¥500+税、「多摩丘陵FootPath2」 ¥500+税、「まちだフットパスガイドマップ」 ¥800+税、「まちだフットパスガイドマップ2」 ¥800+税 の4冊を刊行しています。

市内の書店でのご購入、または、事務局へお申し込みください。



NPO法人「みどりのゆび」

・事務局 : Tel 042-734-5678 Fax 042-734-8954 Email info-m@midorinoyubi-footpath.jp
 ・ホームページ : <http://www.midorinoyubi-footpath.jp/>
 ・Facebook : <https://www.facebook.com/midorinoyubi.footpath>